

第9回 記録映画研究 ご案内

日時 2011年10月19日(水) 18時～20時 (映画とお話) *無料

場所 銀座 (株)21インコーポレーション B1 試写室

テーマ 発見された教材映画(その2) 三木茂と三木映画社

前回は茨城県常総市の小学校で大量に発見された戦後の貴重な教材映画から、消息不明だった岩波映画創業期の3作品を上映しました。

今回は日本の記録映画史に欠かせない名カメラマン三木茂が昭和26年から30年に制作した三木映画社の作品を上映致します。

.....
三木茂(1905～1978)について
溝口健二監督『瀧の白糸』や伊丹万作監督『忠次売出す』など劇映画のカメラマンだったが、その後、記録映画の撮影に転じ、皆既日食の記録映画『黒い太陽』や亀井文夫の『上海-支那事変後方記録-』『戦ふ兵隊』を撮影。『戦ふ兵隊』では、亀井監督の指示したやらせカットを撮らなかった三木を、亀井はルーペ(ファインダー)の中でしか物事を考えない目隠しされた馬だと非難し、後に「ルーペ論争」をおこした。戦後はいち早く三木映画社を設立したが、現像所を持つユニークな会社だった。

また、自らも撮影に参加した広島・長崎の原爆記録フィルムを米軍による接収を避けるため、コピーを三木現像所内に秘匿したことで知られる。

上映作品 (各15分程度)

『火事をなくす仕組み』 モノクロ 1951年 社会科教材映画大系

『警察の仕事』 モノクロ 1952年 社会科教材映画大系

『電信のはたらき』 モノクロ 1953年 社会科教材映画大系

『漁村のくらし』16分 モノクロ 1955年 三木茂(製作・脚本・監督・撮影)

ゲストスピーカー :岡田秀則さん (東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員)

*参加希望の方は、記録映画保存センターまでメール又は電話又はFAXでお申し込み下さい。(会場に人数制限(40名)がありますので、予約先着順とさせていただきます)

主催: 記録映画保存センター TEL. 03-3222-4249 FAX. 03-6380-9590

協力: 東京大学大学院情報学環「記録映画アーカイブ・プロジェクト」
株式会社 21 インコーポレーション (中央区銀座2-11-16)